

文化遺産教育 研究センター

センター長
並木 誠士



文化遺産教育研究センターの活動は、近代京都に関する有形・無形の文化遺産についての資料・情報を収集・蓄積して教育・研究にいかすとともに、調査により得た知見を美術工芸資料館における展覧会というかたちで公開することである。明治時代以降、京都の美術工芸界は、伝統的なものを近代という新しい時代とどのように対応させるかという点で、多様な試みをおこなっていた。新しい機器や動力の導入、新たな図案の開発などが積極的に進められた。そこでは伝統と近代のさまざまな相克の様を見ることができる。また、建築や庭園といったジャンルにおいても、伝統のなかに近代化の波は、つぎつぎに押し寄せていた。このようなさまざまなジャンルにおける近代化の動向やその試みは、その後の動きのなかで忘れ去られたり、乗り越えられたり、あるいは一部の建築のように取りこわされたりしてきた。当センターでは、このような近代京都における多様な文化遺産についての情報や知見を収集・蓄積してゆきたい。

プロジェクトの研究計画

近代京都の美術工芸、建築などのジャンルにおいて、忘れ去られていたもの、失われそうなものの発掘と蓄積をするだけでなく、それらを展示というかたちで世に問う。また、京都工芸繊維大学の前身である京都高等工芸学校の教育・研究およびその卒業生の業績を分析することにより、近代京都、さらには、近代日本において彼らが果たした役割についても明らかにしてゆく。具体的には、以下のような企画を実施し、また準備を進めている。

■ 展覧会

○平成22年度

「浅井忠と京都 1900年～1907年」展

平成22年3月15日(月)～4月30日(金)

美術工芸資料館 1F 第1展示室・第2展示室

京都高等工芸学校の図案科初代教授である浅井忠(1856-1907)が京都で考案した新しい図案に関するデータを集積するとともに、その図案を用いた陶器、漆器類を展示して、伝統と近代の調和を目指した浅井の仕事近代京都のなかに位置づける。



「ここにもあった匠の技 —機械捺染—」展

平成22年8月9日(月)～10月1日(金)

美術工芸資料館 1F 第2展示室

明治時代後期に、他の地域に先駆けて京都に移植された機械捺染の技法は、昭和初期にその役割を終えるまで、量産性の高い染色技法により、庶民の普段着の多くを生み出していた。そこで用いられた多様な図案を分類・整理して公開すると同時に生産の仕組みを展示する。



「浅井忠が選んだフランス陶磁 —明治35年購入の図案科標本より—」展
平成22年10月12日(火)～12月24日(金)

美術工芸資料館 1F 第2展示室

1902年の京都高等工芸学校創立以来、図案科の標本として収集してきた欧米の陶磁作品のなかから、浅井忠が選定にかかわった初期の購入品の特徴を分析し、それらを浅井が作成した図案とともに展示をする。



○平成23年度

「ラヂオの時代 —谷川俊太郎コレクションを中心に—」展(仮称)

詩人・谷川俊太郎氏が長年にわたり収集した欧米の20世紀前半のラヂオや通信機器を展示して、機能とデザインのかかわりとその変遷を示す。また、同時代のポスターを合わせて展示することにより、ラヂオが生活の中心であった時代の雰囲気を演出する。



「日本近代染織の側面 —縞・緋と図案家の誕生—」展(仮称)

大正から昭和前期にかけて京都で活躍をした機械捺染の図案家寺田哲朗の図案を分析し、近代に流行した縞・緋文様が京都と他の地域とでどのように異なるか、また、図案家としての仕事の実態はどのようであったかを展示を通して示す。



「高峰譲吉邸と京都高等工芸学校」展

京都高等工芸学校図案科の初代助教授であった牧野克次(1864-1942)は、1906年以降ニューヨークで水彩画を教えた。この牧野が室内装飾を手掛けた高峰譲吉邸は、牧野以外にも中澤岩太、武田五一など京都高等工芸学校初期の教授陣が関与した。高峰邸の装飾を分析することにより、近代の室内装飾における日本的意匠の意味を考える。

「椎原兵市の公園」展

1907年に京都高等工芸学校図案科を卒業した椎原兵市は、宮内庁内苑寮において京都御苑、栗林公園などを設計し、のちには大阪市公園課で昭和大典記念大阪城公園などの設計をてがけた。椎原の残した図面類を分析し、また、現存する公園を調査することにより、近代における公園の意味や造形を考える。



プロジェクトに期待される成果 将来展望

本プロジェクトを推進することにより、近代の多様な文化遺産についての情報および資料を集積することができ、それを通して近代日本の文化全体を新たな視座から見直すことが可能になる。将来的には、京都と他地域、日本とアジア、アジアと欧米などという比較文化の視点を踏まえた発信をおこないたい。

PROJECT STAFF プロジェクトスタッフ

■ センター長 並木 誠士 (デザイン学部門教授)

プロジェクト研究員

石田 潤一郎(建築造形学部門教授/近代建築史)
小野 芳朗(建築造形学部門教授/土木環境システム・建築史)
澤田 美恵子(言語・文化部門教授/言語学・日本語学)
中川 理(建築造形学部門教授/近代建築史・都市計画)
日向 進(建築造形学部門教授/日本建築史)
松隈 洋(美術工芸資料館教授/建築史)
岩崎 仁(環境科学センター准教授/環境科学・画像保存)
西田 雅嗣(建築造形学部門准教授/西洋建築史)
矢ヶ崎 善太郎(建築造形学部門准教授/日本建築史・造園学)
岩本 馨(建築造形学部門助教/日本建築史)
笠原 一人(建築造形学部門助教/建築史・都市計画)
松田 剛佐(建築造形学部門助教/日本建築史)

特任教員

青木 美保子(特任准教授・神戸ファッション造形大学准教授/近代服飾史)
大田 省一(特任准教授/アジア建築史)
清水 愛子(特任准教授・京都国立博物館調査員/近代陶芸史)
山田 由希代(特任准教授・京都府立堂本印象美術館主任学芸員/近代美術史)
上田 文(特任助教・関西学院大学非常勤講師/近代絵画史)
玉田 浩之(特任助教/建築史)
中野 茂夫(特任助教/建築史)
マレス・エマニュエル(特任助教・京都通信社編集員/庭園史)

技術補佐員

丹羽 結花
和田 積希